

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		確かな学力の向上 (<input checked="" type="radio"/> 深く考え ともに学び) (<input checked="" type="radio"/> がんばる気持ち いっぱいの)			
項目	努力指標 (教師側)	達成度	成果指標 (こども側)	達成度	評語
1	「こうとう学びスタンダードネクストステージ」の指導を徹底し、「学び方スタンダード」に基づいた授業規律や学習習慣について 90%の定着を図る。	102%	学校生活に関するアンケート項目「学び方スタンダード」9項目の自己評価において、肯定的に回答する割合を 90%以上にする。	97%	A
2	全教科において「めあてをつかむ→考える→広げる→深める→(まとめる)→振り返る」の学習過程を基盤とした問題解決型の学習を展開し、児童が「深い学び」に到達することができるよう、校内研究や研修を通して年2回の実践し、日常的に目的と方法が明確にされた授業を行う。	111%	学校生活に関するアンケート項目「学び方が分かり、進んで学習に取り組む」及び「友達と考えを伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりしている」において、肯定的に回答する割合を 90%以上にする。	87%	B
3	朝学習や日々の反復学習、算数の少人数指導等、学習活動全般を通して、漢字や語彙力、計算等の基礎的・基本的な学力を定着させる指導を 100%展開する。	93%	「東京ベーシックドリル」による校内算数検定の正答率を 90%以上にする。また、「こうとう学びスタンダード定着度調査」や「全国学力学習状況調査」の結果を基にした各学年の目標達成率を 90%以上にする。	94%	A
4	タブレット端末やデジタル教科書等、ICT を毎日 1 回以上活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	86%	学校生活に関するアンケート項目「タブレット端末を使った学習」において、肯定的に回答する割合を 100%にする。	86%	B
5	俳句づくり(毎月)や読書指導に計画的に取り組み、児童の語彙を増やし、言語に対する興味や関心を高め、言語感覚を磨く。	79%	学校生活に関するアンケート項目「俳句の学習が楽しい」「読書が楽しい」において、肯定的に回答する割合を 90%以上にする。	91%	A

<結果についての分析と改善策>

- ・項目 2 の「深川小学学習スタイルの定着」については、今年度の学習指導の重点として全学級、全専科教室で取り組んできた。教師側は問題解決型の学習展開を意識して取り組んできたが、児童自身への定着にはもう一歩課題が残った。教師とともに児童が学び方を自覚して、主体的に学びをすすめることができるよう、確かな定着へとつなげたい。
- ・項目 4 の「タブレットや電子黒板等の ICT を活用」については、努力指標と成果指標ともに、90%を下回る結果となった。教科による差や学年差が生じないように、計画的に研修の場を設けるとともに、別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実に向け、校内研究と連携させながら活用を推進していく。
- ・項目 5 については、読書への取組が課題である。次年度は、毎週の読書タイムに加え、読書旬間を設定し、児童同士の読み聞かせや、児童主体の読書の取組を展開していく。

重点領域2		豊かな心の醸成 (㊦ ががやく笑顔で思いやる)			
項目	努力指標 (教師側)	達成度	成果指標 (こども側)	達成度	評語
1	児童一人一人が、自分の居場所を見つけることのできる温かい学級経営、教科経営を目指すとともに、児童が互いのよさに気付き、相互理解することができる活動を工夫する。	100%	学校生活に関するアンケート項目「学校が楽しい」において、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。	90%	A
2	にこにこ班活動(異学年交流)を中心とした、縦割り班遊びやあいさつ運動など、異学年交流を軸とした他者とのかかわり合いを通して、児童の自己有用感や自己肯定感の向上を図り、他者を思いやる心を醸成する。	100%	学校生活に関するアンケート項目「友達と協力しながら活動する」について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	99%	A
3	全児童参加型「朝のあいさつ運動」や廊下でのあいさつの励行、教員による示範等を通して、いつでも・どこでも・だれにでも自分からあいさつできるよう、日常的に指導を継続する。	100%	学校生活に関するアンケート項目「いつでも・どこでも・だれにでも自分からあいさつすることができる」について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	103%	A
4	道徳では「友情、信頼」「公正、公平」等のいじめ防止に関する授業を年3回実施するとともに、よいところ見つけや年間3回のいじめアンケート等の取組を通して、いじめの未然防止といじめの早期発見・早期解決に努める。	93%	学校生活に関するアンケート項目「いじめ」について、「いじめは絶対にしない、してはいけない」と回答する児童を100%にする。	96%	A
5	近隣の保育園や幼稚園、中学校との連携や、様々な障害をもつ人々との交流を通して、様々な発達段階や障害等を学び、差別意識や偏見をなくそうとする意欲や態度を育てる。	93%	学校生活に関するアンケート項目「多様な人々と交流し、自分との違いや互いのよさに気付くことができた」について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	97%	A

<結果についての分析と改善策>

- ・努力指標・成果指標ともに、概ね良好な結果となった。項目1「学校が楽しい」について、肯定的な回答をした児童の割合が90%となる結果となった。しかしながら、否定的な回答をした児童も10%存在する。別室登校の取組等、教室外の居場所づくりの充実を図りながら、今後も一人一人のこどもの心の居場所を大切にしたい学級経営・学年経営・教科経営・学校経営に取り組む。
- ・「いじめは絶対にしない、してはいけない」については、100%を目指すところ、もう一步の結果となった。次年度は、ふれ合い月間を活用した児童主体のいじめ防止の取組をすすめていくとともに、道徳や学級活動の時間の充実を図り、いじめに対して、一人一人の児童が自分事として考えることができるよう、一層工夫していく。
- ・今年度、「様々な他者とのかかわりを大切にしたい学習活動」を重点の一つとし、異学年交流や地域、保幼小中学校、障害のある方々との交流を積極的に実施した。この取組については、教師側、児童側共に、互いに成果を実感することができる結果となったといえる。地域とのかかわりを軸とした体験活動や他者との交流は、本校の強みである。次年度も内容を一層充実させていく。

重点領域3		体力向上及び健康の保持増進（ わ わたしたち元気な深川っ子）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	毎時間、めあてが明確で運動量が確保された体育の授業を展開するとともに、児童自ら、めあてに応じた振り返りを行うことを通して、体力の向上を図る。	93%	学校生活に関するアンケート項目「めあて達成に向けて一生懸命に運動している」について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	97%	A
2	体力・運動能力調査の結果を踏まえて児童個人の課題を明確にさせるとともに、体育の授業では、運動領域に即した主運動につながるわくわくタイムの充実を図ったり、場の工夫を行ったりして、体育の授業に取り組む意欲を高める。	93%	学校生活に関するアンケート項目「体育の授業が楽しい」において、肯定的に回答する割合を95%以上にする。	97%	A
3	ウキウキタイム、深川っ子タイム等、休み時間の外遊びの励行や学級ごとの遊び等を通して、日常的に進んで身体を動かす習慣を身に付けさせる。	86%	学校生活に関するアンケート項目「休み時間には、進んで身体を動かしている」について、肯定的に回答する児童の割合を90以上とする。	81%	B
4	保健指導全体計画、食に関する指導の全体計画等に基づき、年間を通して食育や保健指導を計画的に実施する。	93%	学校生活に関するアンケート項目「自分の健康や成長についてよく考えている」について肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。	92%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目1「めあて達成に向けた運動」と項目2「体育の学習が楽しい」については、成果指標を9割台の設定としたこともあり、標語はAとなった。項目1「めあて達成に向けた運動」について、教師側も児童側も、ともに意識を高めることを目指し、年間3回の体力向上推進期間を設定し、体力向上や、めあての達成に向けた意識の素地をつくっていく。 ・項目3「休み時間には、進んで身体を動かす」について、90%を下回る結果となった。今年度は、小規模改修工事の年にあたり、全校的に、思い切り体を動かすことに課題があった。人とのかわりの意味も含め、ウキウキタイムや休み時間クラス遊び等を積み重ね、体を動かすことの楽しさを味わわせていく。 					

<様式1>

重点領域4		信頼される学校の創造			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	学校からの情報発信を工夫・改善し、保護者に向け、「がくぷり」や「すぐーる」を活用した配信を積極的にするとともに、学校ホームページを月3回程度更新し、地域や外部機関による学校への理解と信頼を高める。	93%	保護者アンケート項目「学校は、積極的に情報発信している」について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。	110%	A
2	学年の発達段階や教科等の特性に応じて、地域を素材とした学習や、地域と連携した学校教育活動を、生活科や総合的な学習の時間、学校行事、特別活動等で、全学年で年1回以上実施し、児童に地域の一員としての自覚を高めさせる。	100%	学校生活に関するアンケート項目「深川のまちが好き・地域のことがよく分かるようになった」について肯定的に回答する児童90%以上にする。	97%	A
3	コミュニティ・スクールでの活動を軸として、保護者アンケートの実施や学校運営協議会での評価結果とともに、学校評価を分析し、次年度の教育課程に反映させる。	100%	保護者アンケート項目「学校は改善されていると感じる」について、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。	96%	A
4	教職員の連携を図りながら、いじめ・不登校・アレルギー事故ゼロを目指し、未然防止・早期対応・早期解決に向けた対応を充実させる。	100%	保護者アンケート項目「学校は、いじめ・不登校・アレルギー事故ゼロに向け、未然防止や早期対応に向けた取組を丁寧に行っている」について、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。	101%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力指標・成果指標ともに、概ね良好な結果となった。項目1「学校からの情報発信」については、学校ホームページと「がくぷり」を、地域向けと保護者向けとに分け、学校行事や各学年の取組など、積極的に発信を重ねることができた。次年度は、校務分掌にホームページ担当を設定し、更新の確認事項を共通理解しながら計画的に進めていく。 ・項目4では、「いじめ、不登校、アレルギー事故」ゼロを目指し、学校全体で対応・改善を心がけてきた。校内いじめ防止対策委員会、不登校児童情報交換は、計画的に組織的に運営されており、早期発見、早期対応はできている。アレルギー対応も丁寧にできている。次年度も、保護者への理解や協力を得ながら、いじめゼロを目指したい。 					

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 - B：50%以上90%未満
 - C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）